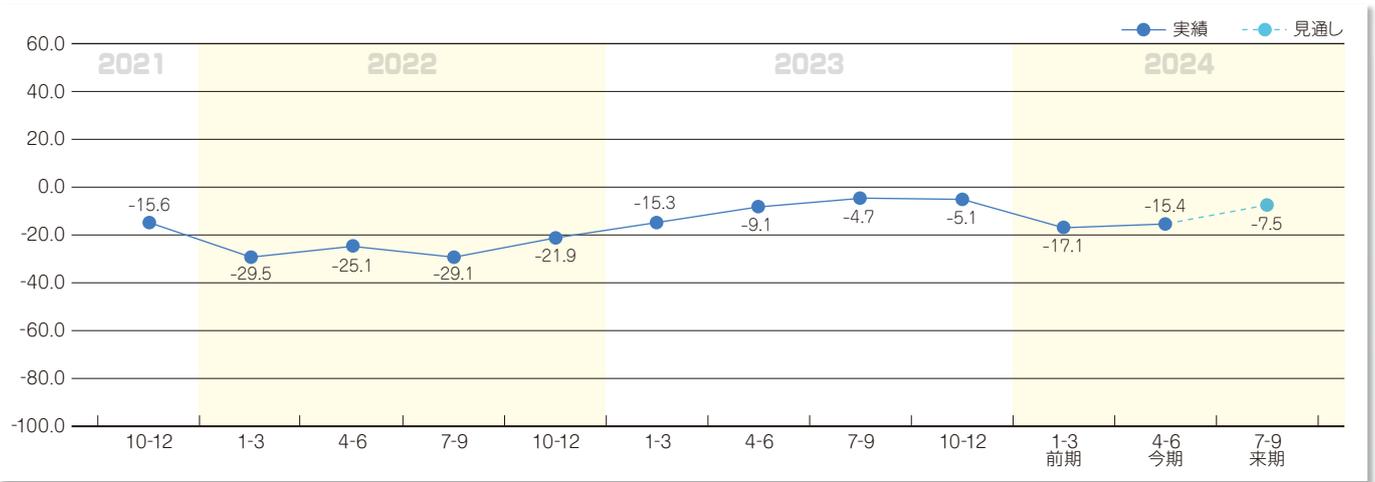


全業種

回答数318社

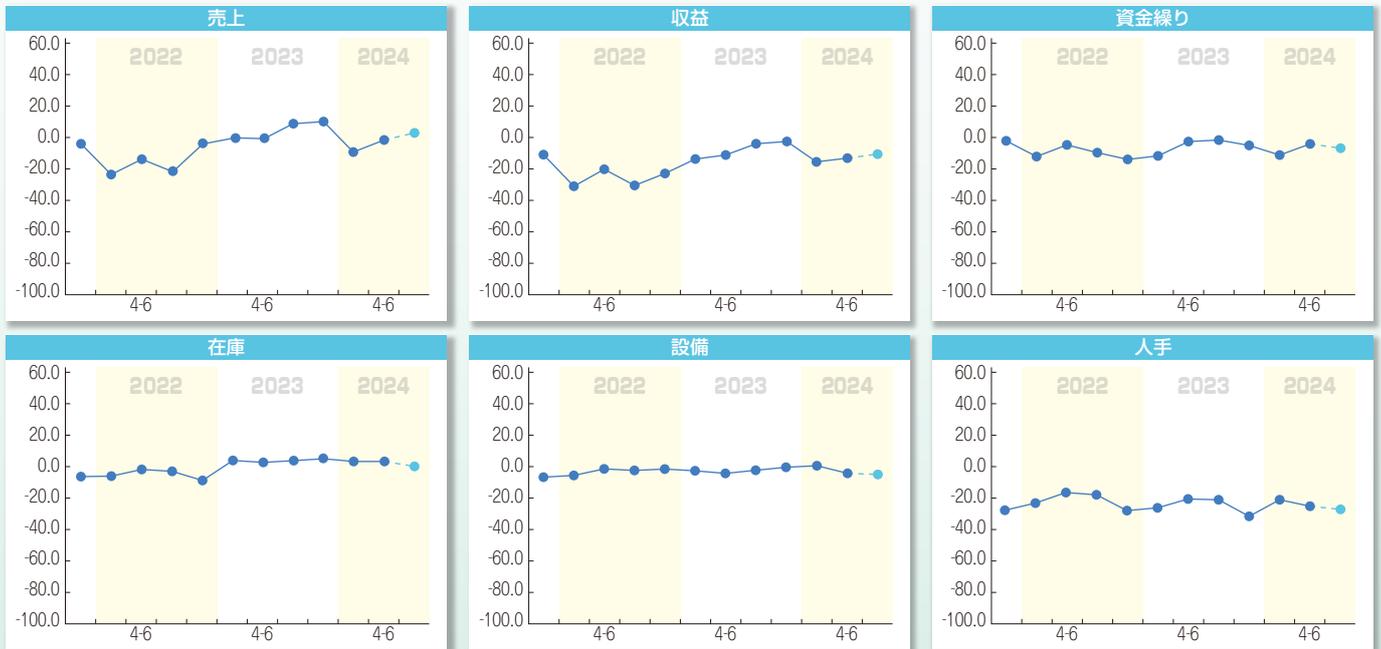
今期の業況D-Iは、前期比1.7ポイント上昇の▲15.4と、わずかに改善。業種別では、製造業とサービス業で改善の一方で、卸売業と小売業で悪化。来期の予想業況D-Iは、7.9ポイント上昇の▲7.5と改善の見通し。製造業、建設・不動産業は大幅な改善を見込むが、その他の業種は悪化の見通し。

前期実績 今期実績 来期見通し



主要D-Iの推移 (注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



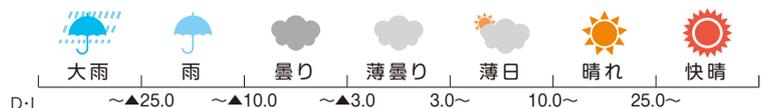
へきしん取引先景況調査とは

本調査は、地域および業種の景気実態および景気予測(景況)を把握するため、四半期ごとに当金庫の取引先企業様にアンケート調査を実施し、回答をいただいたものです。

調査概要

実施時期 2024年6月3日～7日
 対象企業 318社
 対象地域 西三河および尾張南部を中心とした当金庫の営業エリア

天気図の見方



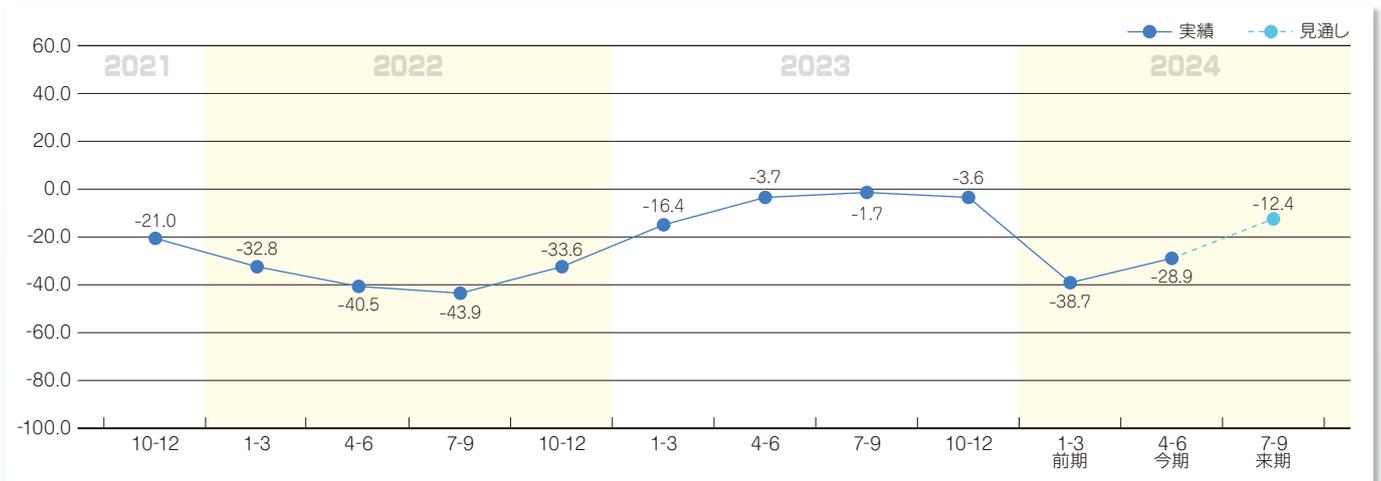
D-I(ディフュージョンインデックス)とは…業況(業界の景気)等を判断するための指数であり、(良いまたはやや良いと答えた割合)-(悪いまたはやや悪いと答えた割合)で求められます。

製造業

回答数121社

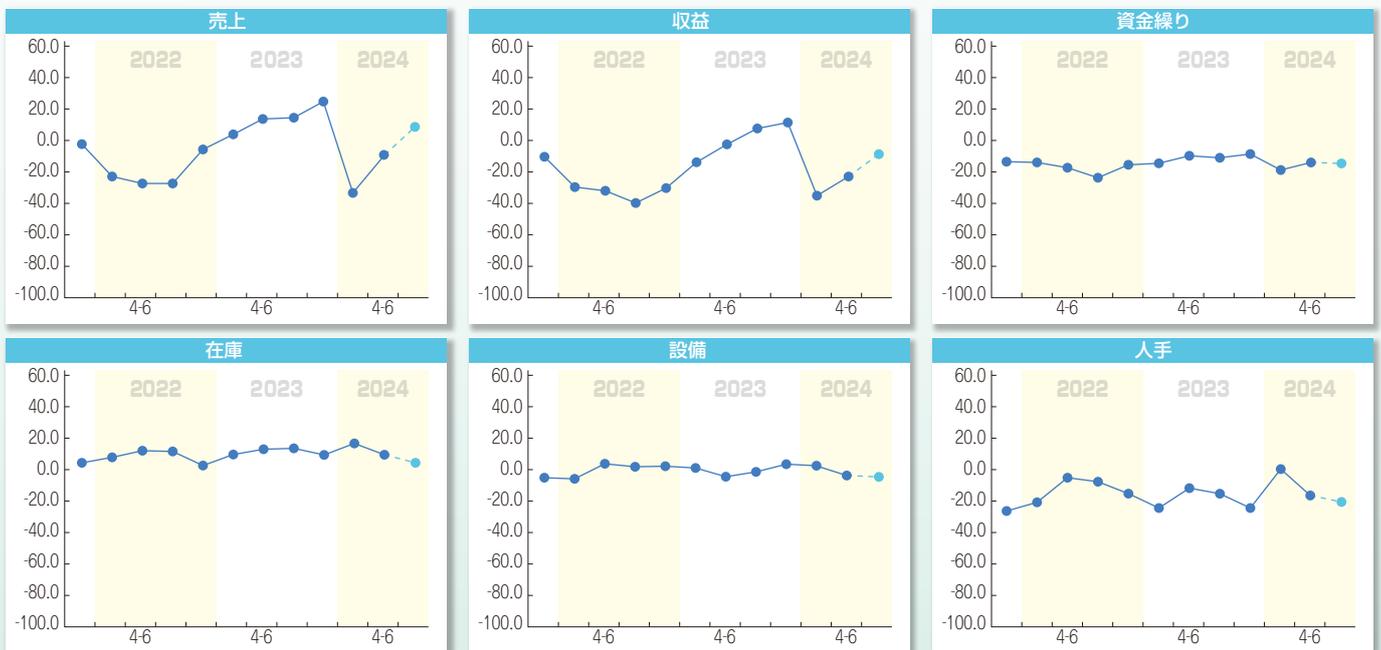
今期の業況D・Iは、前期比9.8ポイント上昇の▲28.9と、改善。設備の導入や事業転換、価格転嫁などに取り組んでいるとの声もあり、売上および収益は改善した。来期の予想業況D・Iは16.5ポイント上昇の▲12.4と、改善傾向が続く見通し。一方で、自動車業界での不正問題による影響を懸念する声も多い。

前期実績 今期実績 来期見通し



主要D・Iの推移 (注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



- 低収益であった自動車部品から化粧品容器等製造へのシフトに成功し、高収益を維持している。工場が手狭であり、新工場用地を探している。(プラスチック製品製造)
- 仕事の依頼は多いが、外注先を利用すると利益率が下がるため、自社で製造できるキャパを超えないよう調整している。(窯業)
- 自動車部品のみを取り扱っており、BEV化への対応が課題。(自動車部品製造)

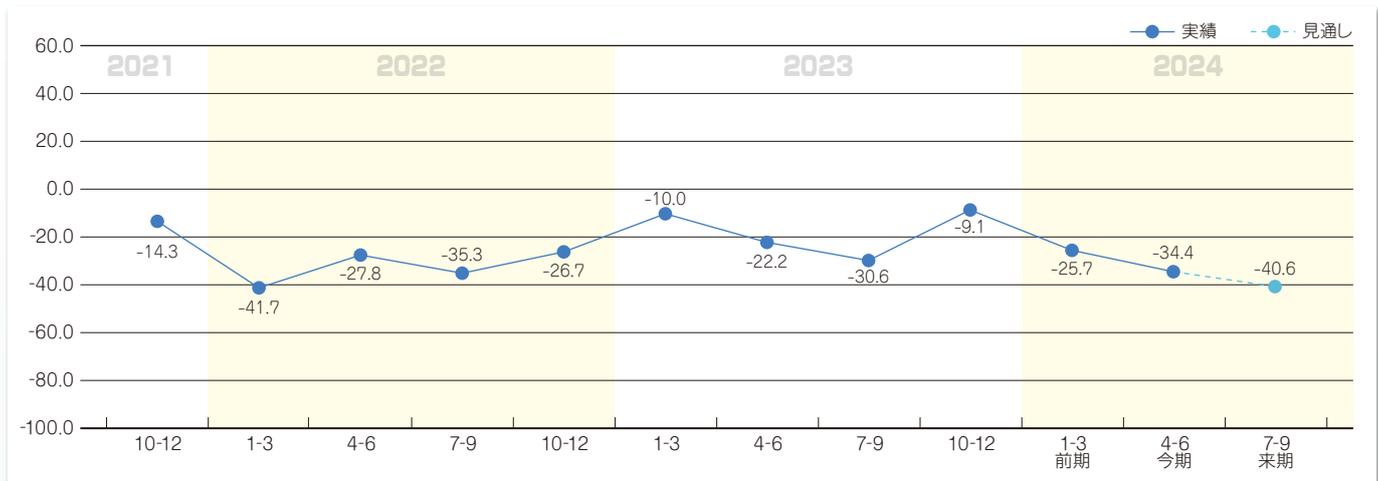


卸売業

回答数32社

今期の業況D・Iは、前期比8.7ポイント低下の▲34.4と二期連続で悪化した。仕入価格高騰や自動車不正問題のほか、暖冬などの影響もあり、売上や利益の確保に苦戦する企業が多いことがうかがえる。来期の予想業況D・Iは6.2ポイント低下の▲40.6と、悪化の見通し。厳しい状況が続くことが見込まれる。

前期実績 今期実績 来期見通し



主要D・Iの推移

(注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



- 販売先を増加させるより、既存先への販売数増加に注力。コロナ禍よりは回復しているが、コロナ以前の水準には戻っていない。(食品卸売)
- 国産の鉄鋼を取り扱っているため、為替の影響はない。自動車メーカーの不正問題の影響が出ており、正常化の見通しは立っていない。(鉄鋼製品卸売)
- 受注先は非常に多く業況は安定しているものの、仕入価格の高騰により、利益確保に課題がある。(建築材料卸売)



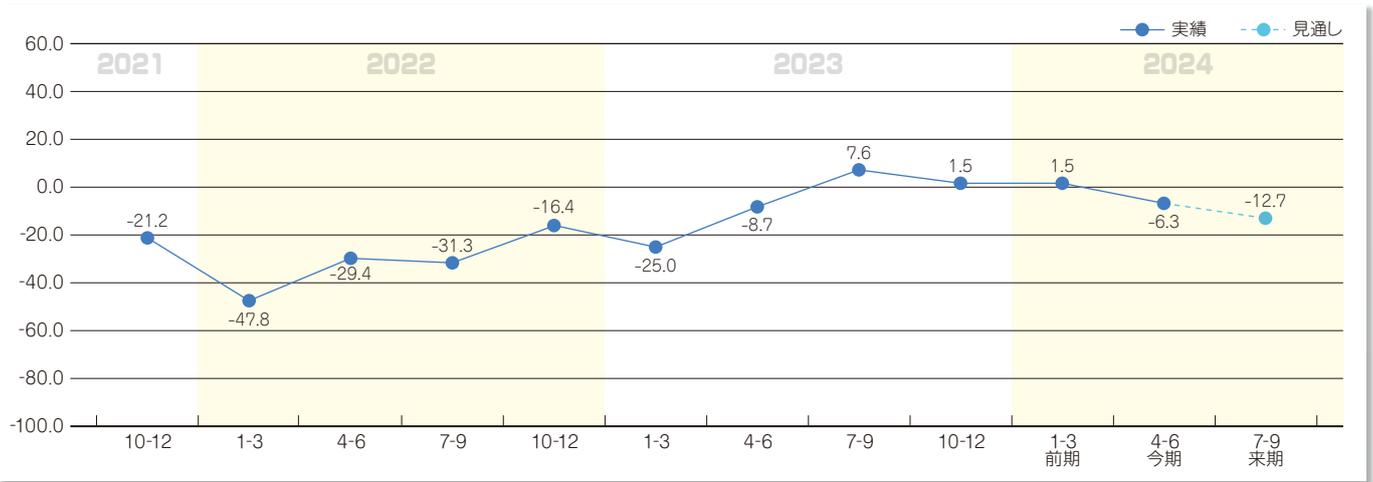
小売業

回答数63社

今期の業況D-Iは、前期比7.8ポイント低下の▲6.3となり、悪化。コロナの5類移行後、業況は回復基調が続いていたが、仕入価格や人件費など各種コスト増加が重しとなり、四期ぶりのマイナス水準となった。来期の予想業況D-Iは6.4ポイント低下の▲12.7と、引き続き悪化の見通し。

前期実績 今期実績 来期見通し

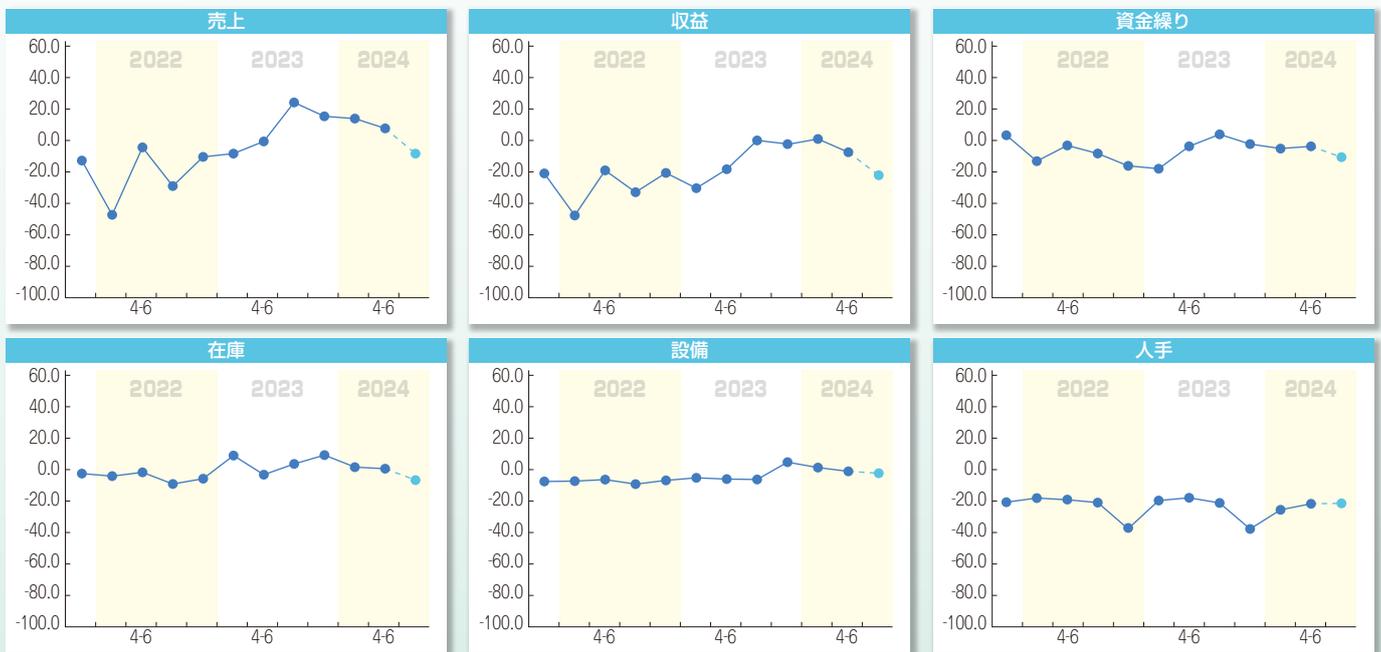
業況D-Iの推移



主要D-Iの推移

(注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



- 売上に関しては増加傾向にあるが、仕入価格の上昇など、コスト面で難しい状況。(食品小売)
- 最近では営業赤字が続いている。人件費の見直しや商品単価の引き上げなどにより改善を図っていく。(飲食店)
- コロナ以降売上回復が遅れており、業況は厳しい。(衣類小売)

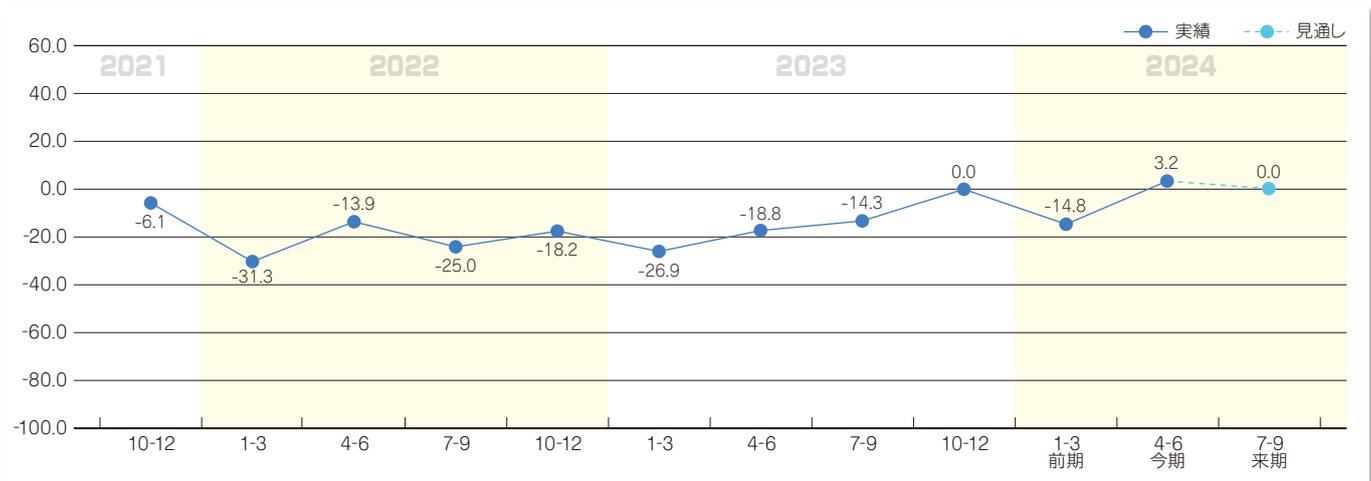


サービス業

回答数31社

今期の業況D・Iは、前期比18.0ポイント上昇の3.2となり、大幅に改善。依然として人手不足感は強いものの、受注の安定や新規顧客の獲得などにより、売上、収益ともに改善した企業が多いことがうかがえる。来期の予想業況D・Iは3.2ポイント低下の0.0と、わずかに悪化の見通し。

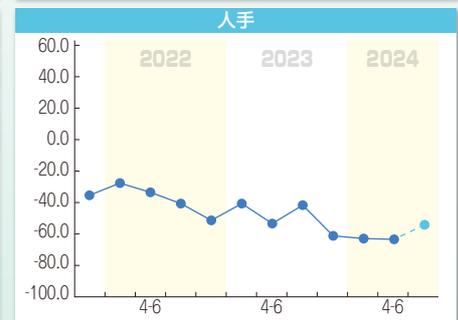
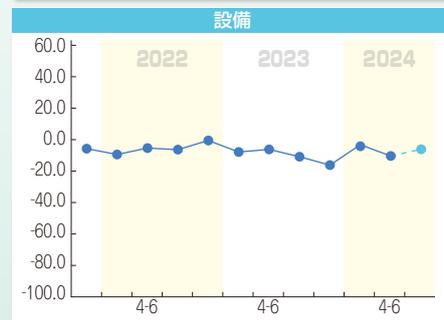
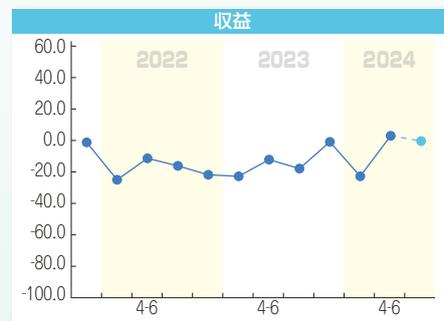
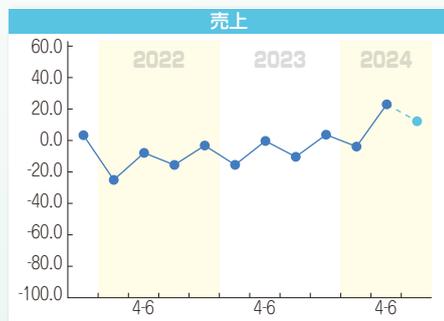
前期実績 今期実績 来期見通し



主要D・Iの推移

(注)設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



- 店舗のリニューアルにより新規顧客を確保し、売上増加。従業員の技術力向上のため、積極的にセミナーを開催している。(エステティック業)
- 売上増加にともない店舗の狭小が問題となっている。土地を探しているものの、なかなか見つけられず、現状では更なる売上の増加は難しい。(クリーニング業)
- 周辺に同業他社が多く、売上が若干減少傾向。顧客の確保が直近の課題となっている。(理美容業)



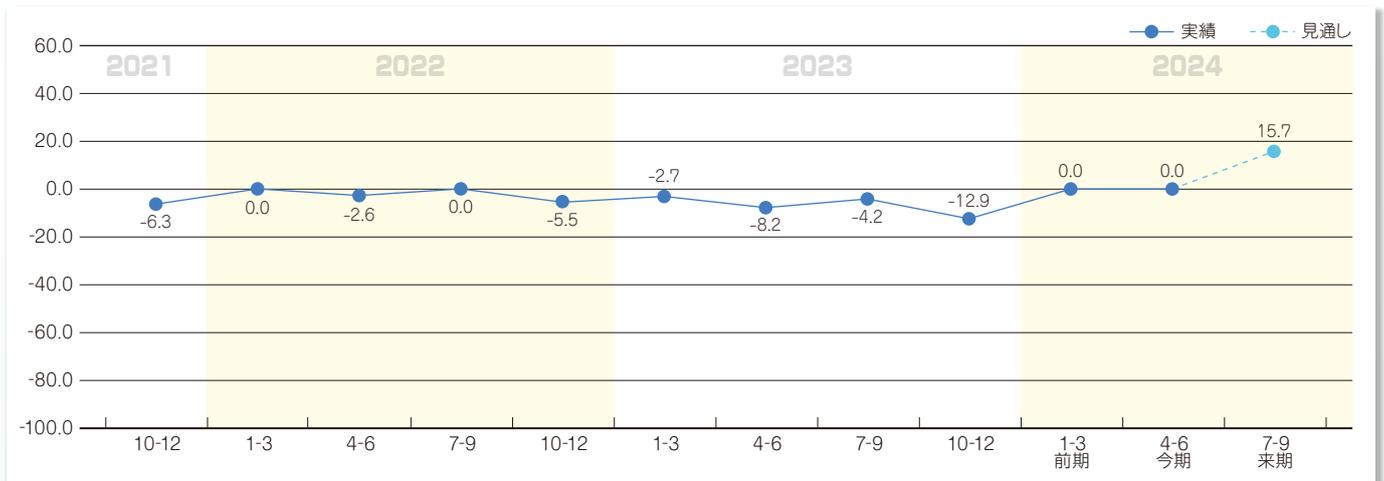
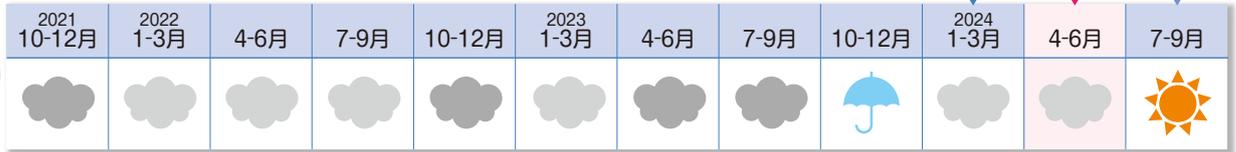
建設・不動産業

回答数70社

今期の業況D・Iは、前期比横ばいの0.0。建設業で改善した一方で、不動産業では悪化。人手不足解消のため、多くの企業が人材確保に向け取り組んでいる。来期の予想業況D・Iは15.7ポイント上昇の15.7と、大幅に改善の見通し。売上の増加を見込む企業が多い。

前期実績 今期実績 来期見通し

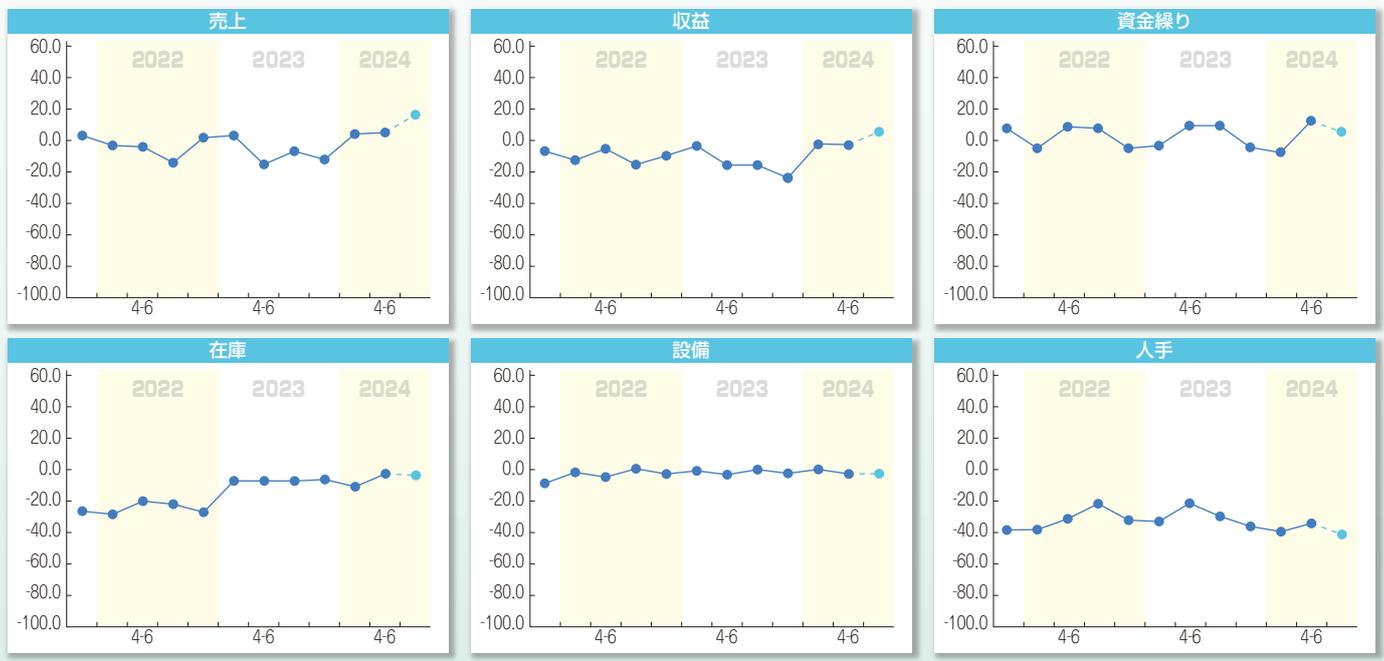
業況D・Iの推移



主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



- 物価高騰の影響は受けたものの、価格転嫁を実施し対応。また受注量も回復しており業況は安定。(建築工事)
- 人手不足が課題。これまでは有資格者を募集していたが、無資格者についても募集をしている。会社HPのほか、ハローワークや求人情報サイトを利用。(土木工事)
- 今期は増収増益。今後は、人材確保のためにも人件費を増加させ、初任給の引き上げやベースアップ等の対応を図っていく。(戸建販売)